

宮城県美術館リニューアル基本構想（中間案）に対する関係機関等からの意見聴取結果

NO	項目	ページ	主な意見・提言の内容（要旨）	考え方
4-1	第2章宮城県美術館が目指す方向性 1果たすべき役割	P17	「連携センター」のようなコーディネーターがいる場所が必要である。	・県立美術館の役割として、県内の美術館、アート関連施設を支援していく旨記載しました。
4-2			県内市町村の美術家及び類似施設の学芸員や教育普及活動等の支援を行って欲しい。	
4-3			県内市町村の専門職の支援指導を行ってほしい。（年に数回の研修会を実施するなど）	
4-4			宮城県美術館を入口に、県内の他地域に目を向ける契機となるような、ハブとしての役割を期待したい。	
4-5	第2章宮城県美術館が目指す方向性 4リニューアルのコンセプト(1)	P20	仙台市内の中学校の非常勤講師をしているが、美術館に行っていない生徒が多いし、行った経験を覚えていない生徒も多い。今後「キッズ・ラボ」の重要性が増すと感じる。例えば、体験型・ワークショップ・あそんで学ぶゾーン・子ども向け資料やパンフレットなどそこに行くと、子どもが知識や感覚が豊かな場所を期待したい。	・「キッズ・ラボ（仮称）」は、子どもや利用者の方々に豊かな体験を提供する拠点とするべく、今後その具体的な内容を検討していきます。
4-6			キッズラボについては、保護者目線で考えた場合、子どもを預けて、親が自由に動ける場所だと良いと思う。絵本や簡単なあそぶスペースがある。	
4-7			キッズラボでは、小さい子どもと協力してまちづくりにつながるようにすることも良いと思う。例：金沢市ではまち全体がアートになっている。	
4-8	第2章宮城県美術館が目指す方向性 4リニューアルのコンセプト(2)	P20	中学教員は平日や通常の開館時間では情報収集や教材研究ができない。月に1日開館時間を延長するなど決まっていると来館して相談等もできる。	・より多くの県民の皆様にご利用しやすい環境整備の観点から、週末の開館時間の延長について、記載を追加しました
4-9			開館時間の延長：夏季期間ではなく、週1回曜日を決めて、昼からよるまでなどの方が遠方からも行きやすい。	
4-10	第3章宮城県美術館に求められる機能と役割 4教育普及(1)	P25	ボランティア活動に取り組んでいて、現在の創作室での活動は大変良い。あえて、ボランティアルームのように仕切られた空間は閉塞感や孤立感が生じるので、現状が良い。	・ボランティアの活用については、外部人材との連携も含め、基本方針の中で検討していきます。
4-11			ボランティア希望者は多いと感じている。周知の仕方や活用の仕方を工夫すると良いと思う。作業内容ごとにボランティアの募り方を変えるなど。	
4-12			ボランティア専用ルームはとても必要に思う。ボランティアに関しては、内容によって大学との連携で、直接大学とのやりとりで進める事も可能に感じる。特にキッズラボのボランティアとして宮城教育大学の美術科は美術の専門性もあり、子どもの扱いもできるので、ぜひ進めて欲しい。	
4-13	第3章宮城県美術館に求められる機能と役割 4教育普及(1)	P25	スタッフの充実の点では、アウトリーチに力を入れるべき。子どもなどが美術に触れる時間を増やすことが大切。	・スタッフの充実については、子どもの美術体験活動の機会の充実も含めて、基本方針の中で検討していきます。
4-14	第3章宮城県美術館に求められる機能と役割 4教育普及(3)	P26	県民ギャラリーは階段が多く、奥まっけていて分かりづらい。バリアフリー化や利便性の向上が必要と思う。	・県民ギャラリーは、県民の積極的な創作活動の発表の場であり、その機能の充実については、基本方針の中で検討していきます。
4-15			県民ギャラリーの照明の明るさ、設置場所、可動性の自由度が高いと展示しやすくなる。地下よりも地上に設置し、本館と並んでいると利便性が高くなる。	
4-16			県民ギャラリーの料金が高いので、部屋を小分けにしてそれぞれの料金設定にしてはどうか。	
4-17			県民ギャラリーの展示方法の簡便化を検討して欲しい。	

4-18	第3章宮城県美術館に求められる機能と役割	P26	創作室は「外から自由に」という当時としては革新的な取組であった。講堂は、中途半端な感じがする。貸し出しができるぐらいの規模がないと意味がない。例：国際センター＋近隣施設（美術館・美術館講堂）と考えたときの美術館の役割は大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・広く県民の方々が活用しやすく、集い交流できる美術館を目指して、交流の場については、基本方針の中で検討していきます。
4-19	5交流が生まれる場(1)		美術館のホールとしては貸し出しへの抵抗感はあるかもしれないが、使う側からすると便利。外に開放できる施設として充実して欲しい。（例：コンサートができるぐらい）	
4-20			講堂を今後も残すのであれば、有料にし貸し出しできるようにする。	
4-21			県民ギャラリーの利用と同時に研修会を行いたい場合、制限が多い。貸館できる部分があると良い。	
4-22	3求められる機能と役割	P27	今後高齢者人口が増えるので、高齢者への配慮の部分を盛り込むべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・世代や障害の有無等にかかわらず、すべての入館者に快適な環境が提供できるよう施設のユニバーサルデザイン化について、基本方針の中で検討していきます。
4-23	6ユニバーサルデザイン化		宮城県美術館は階段が多い。高齢者や障害のある人には負担が大きい。	
4-24	第4章本構想の実現に向けて3スタッフの充実(1)	p30	学芸員の資質向上には、外部との人事交流や、他館との企画交流などが重要。外の世界をどう取り込むかこれを機に検討して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員は美術館を支える中心的な存在であり、その資質能力の向上については、今後の美術館運営の重要な部分と捉えています。具体的な内容については、基本方針の中で検討していきます
4-25	その他の意見		基本構想の中に、宮城県ならではをもっと強調し、独自性をだすべき。本県ゆかりの作家に関することが薄い。今の収集の在り方の是非を判断する時期である。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想をもとに、多様な観点からリニューアルの具体的な内容を検討し、基本方針を策定します。 ・その過程において、宮城県にある美術館としての特色をアピールしていきます。 ・また、より利用者の方が利用しやすい施設を目指し、情報発信や広報、関係機関との連携等も検討していきます。
4-26			「総合美術センター」はことばとしててんこ盛りのイメージがある。何でもありだが何もできない施設にならないようにしていくとよい。このことばは見る人によって受け止め方が異なるのであれもこれもとく要求に対応できるかどうか。また、間口が広がることによって、やれる内容が狭くなる可能性もある。	
4-27			美術館の外観は歴史あるもので、自然と同化している。それ故に目立たない感じが強い。地下鉄も開通したので、周囲全体をアートのまちとして地下鉄内の装飾も含め、宮教大や芸工大、宮城野高校等と連携して、デザインアートにしてみることも良いのではないか。	
4-28			道路から駐車場しか見えないので、美術館がどこにあるか分からない。外に設置する作品の位置を検討したり、アピール方法を工夫して分かりやすくした方が良い。	
4-29			近隣や県内の美術館、博物館等の展示情報を分かりやすいところに展示するとそこから行ってみようかと関心ができる。そういう連携もあってもよいのではないか。	
4-30			県民・市民の文化芸術に関する底上げを図ることが大切。その点から子どもたちへのアプローチは大変良いことだと思う。子どもの時期に体験しても年齢とともに意識が下がっていくことが問題。継続性をどう確保するかが大切。	
4-31			展示解説には専門用語が多く、専門的な人には良いが、一般的には難しく、美術に対する距離感をもたれやすい。仙台市博物館では、子供用の簡単な解説もある。美術館利用者の裾野を広げるためにも分かりやすい解説があると良い。	
4-32			絵本原画は大変有名。常設してほしいという要望が出てくると思う。絵本だけの美術館があるくらいなので、是非活用して欲しい。	
4-33			海外の美術館は、模写や写真撮影が可能なのに、日本はなぜできないのか。模写は大変有効な美術館活動である。県民の自由な創作活動と謳っていることと矛盾する。	
4-34			ジパング倶楽部で9位だったことを、入り口に記事を掲示するなどPR活用すると良いのではないか。	

4-35	その他の意見	エントランスホールをもっと活用すると、いろいろなことができるのではないか。以前ダンス（表現）のイベントやったことがある。）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想をもとに、多様な観点からリニューアルの具体的な内容を検討し、基本方針を策定します。 ・その過程において、宮城県にある美術館としての特色をアピールしていきます。 ・また、より利用者の方が利用しやすい施設を目指し、情報発信や広報、関係機関との連携等も検討していきます。
4-36		テニスコート場所なども活用していくほうがよい。	
4-37		オランダでは子どもたちが絵画の鑑賞会としてフロアに座り1枚の絵に30～40分かけて教師が説明する。教育委員会として学校教育との関係にも考慮し、芸術文化に対する子どもの意識を高揚させる手立てを講じていくべき。	
4-38		子どもがたくさん来る美術館であって欲しいが、きっかけ作りには強制力が必要と考える。	
4-39		料金設定が一般料金は高い感じがする。気軽に行く、繰り返し行くためにも年間パスポートのようなシステムの導入があると良い。	
4-40		リニューアル休館中には、県内他施設で展示する機会を設けるなど、所蔵品を積極的に運用してほしい。	